

「三重県高齢者入所施設等における新型コロナウイルス感染症対策に関する調査」 結果について

高齢者入所施設における新型コロナウイルス感染症対策の取組状況について、ヒアリングを行ったところ、各項目に関する状況は下記のとおりでした。

実施施設数：14 施設

(サービス付き高齢者向け住宅 6 施設、有料老人ホーム 3 施設、
特別養護老人ホーム 4 施設、介護老人保健施設 1 施設)

実 施 日：令和2年8月7日から8月20日まで

実施方法：電話による聴き取り

1 調査内容（概要）

(1) 新型コロナウイルス感染症の影響

①施設運営への影響

- ・高齢者施設は、受入れに影響がなかった。(71%)
- ・県外、県内の流行地からの入所者・家族は制限した。
- ・家族が本人を入所させることに躊躇されたため、入所が延期となった。
- ・医療施設から入所される場合、本人と面会できないこともあるが、日頃の連携により、調査もでき、スムーズに入所ができた。

②入所者の状態変化やそのリスク

- ・外出制限や交流機会（家族との面会、地域ボランティアとの交流等）の減少により、身体活動量の低下(57%)、認知機能の低下(43%)、生活満足度の低下(86%)、興味・関心・意欲の低下(43%)がみられた。
- ・入所者には、身体面だけでなく、精神面においても不安定となる方がいた。

③特に増えた業務

- ・職員の検温、ドアノブ、手すり等の消毒の徹底、定期的な換気の実施等。(100%)
- ・厚生労働省、県等から新型コロナウイルス対策の情報や実際コロナが発生した施設の情報収集を行った。(64%)
- ・感染防御資材調達のため、通常ルートで入手できないため、職員がホームセンターやネットで調べて調達した。(86%)
- ・職員や家族が発熱した場合、出勤を控えてもらうため、勤務体制の調整に苦慮した。(43%)
- ・サービス提供体制や面接方法の変更に伴う利用者家族の説明(文書、電話連絡)や面会時の検温や面会者の行動確認等により、業務負担となった。(100%)

(2) 実施した対応策

①入所者等に対する標準予防策の徹底について

- ・「手洗い、手指消毒、うがい励行の徹底」、「マスク着用の励行」、「諸活動の制限中止」、「面会制限・禁止」、「部屋の換気」は、ほとんどの高齢者施設（90～100%）が取り組んでいた。
- ・「物理的距離の徹底」、「マニュアルを作成し、それに沿った職員行動」については、取組は少なかった。（43%）

②入所者等と家族や友人の面会や交流等の工夫について

- ・オンライン面会について、実施や検討中の施設は50%だった。
- ・オンライン面会について、家族はおおむね喜ばれる方が多かった。入所者は、喜ばれる方とオンライン面会実施しても理解困難な方がいた。
- ・玄関のガラス越し等で物理的距離をとっての面会を実施している施設があった。（64%）
- ・精神的に不安定の方やターミナルで看取りの場合、家族の検温や行動を確認したうえで、面会実施している。（74%）

③感染症にかかわる研修、迅速な情報共有について

- ・「資料の回覧、掲示、配布による情報共有」や「朝礼・ミーティングでの情報共有」を実施している。（93%）
- ・ケアマネジャー、近隣の高齢者施設、医療機関より、情報共有や情報収集している。（57%）

④法人、施設内の勤務体制調整、応援体制整備について

- ・急な欠員に備え、柔軟な人員、業務調整と応援体制を整備している。（50%）
- ・想定はしているものの、応援体制は検討中。（50%）

⑤職員の健康管理およびストレス状態の把握・メンタルサポートについて

- ・体温測定、体調の自己チェックを励行している。（100%）
- ・定期的に施設長が職員を個別ヒアリングしている。
- ・コロナ以前から、職員が安心してなんでも相談できるように働けるように配慮している。少しでも気になることがあれば、早めに相談してもらうよう伝えている。（43%）
- ・管理者が体調の悪い職員をチェックし、声掛けなどして、業務負担軽減している。（43%）
- ・病院受診、買い物の付き添いは基礎疾患のない職員が対応している。

(3) 参考になった情報（ウェブサイト等）

三重県のホームページ (90%)

厚生労働省のホームページ (70%)

市町のホームページ (36%)

その他 (全国老人保健施設協会、看護協会、有料老人ホーム協会、
地域包括支援センター、近隣の高齢者施設、近隣の医療機関
コロナが発生した施設のホームページ)

(4) 第2波に備えて実施が必要であると考えていること

①施設の今後の対策について

- ・感染症対策マニュアルの策定や改訂について、通常の感染症対策のマニュアルであり、新型コロナウイルスに対応できるマニュアル作成の必要性を感じているという意見があった。
- ・いくつかの発生パターン（利用者が発生、職員が発生など）を想定して、シミュレーションしている。シミュレーションにより、発生した場合、右往左往しないで済むと考えている。
- ・必要物品の準備について、以前は備蓄が1か月だったが、品薄になる恐れがあるものについては、3か月分蓄えているという施設があった。

②施設支援や環境整備について

- ・感染防御資材の優先調達について、コロナが発生した場合、県等から優先的に支給していただきたい。(71%)
- ・感染者等発生時の陽性者の速やかな入院について、施設で完全に隔離することができないので、速やかな入院を希望する。(86%)
- ・発熱、咳等がある入所者等及び職員への積極的な検査の実施について、高齢者施設なので、安心して介護ができるように、入所者、職員が優先的にPCR検査を受けれる仕組みがあるとよい。(86%)
- ・職員への特別手当（危険手当を含む）の支給について、国の慰労金はありがたい。しかし、施設の利用控えがあるので、安心して経営できるように支援してほしい。(79%)
- ・風評被害への対応について、近隣施設でコロナが発生し、ネットでデマが拡散し、問い合わせに苦慮した。また、今後の風評被害が心配。(43%)

2 課題について

- ①入所者が、外出や家族との面接機会等が制限されることにより、入所者の身体機能の低下だけでなく、生活満足度の低下により精神面においても不安定になっている。
- ②施設内の勤務体制調整や応援体制について、検討中であり、不安を抱えている施設が多い。
- ③インフルエンザやノロウイルス等の感染症対策マニュアルは整備しているが、新型コロナウイルスに対応した感染症対策マニュアルが必要である。
- ④施設内でコロナウイルス感染者が発生した場合、速やかな入院ができる体制整備と入所者、職員が優先的にPCR検査できる仕組みづくりが必要。
- ⑤風評被害への対応について
- ⑥利用者控えによる事業所の経営についての支援。